

「第8回高山市協働のまちづくりフォーラム」実施報告書

1. 目的

地域課題の解決に向けた市民、まちづくり協議会、市民活動団体、事業者等、多様な主体の協働の促進

2. 実施日時及び会場

日時：令和5年2月25日 土曜日 13:30～15:50（開場 13:00）

会場：高山市民文化会館 3-11（Zoomによるオンライン同時開催）

3. 参加者

区分	参加者数（件）	備考
まちづくり協議会	27	計 12 団体
市民活動団体	9	計 7 団体
市職員	6	
一般市民	5	
その他	12	事業者等
合計	59	

※複数人による共同視聴を含む。

4. プログラム

- (1) 主催者あいさつ・趣旨説明
- (2) コミュニティづくりの活動事例発表
○認定 NPO 法人まちづくりスポット
- (3) 市民活動団体パネル展示交流会
- (4) グループワーク

【テーマ】多様な主体との協働：地域コミュニティのあり方について考えよう

まちづくり協議会や市民活動団体、事業者等様々な主体が、コミュニティづくりのきっかけとなる「買い物」という視点から地域コミュニティについて考え、アイデアを出し合う。

お題① 自身の少年・少女時代の買い物の思い出

- ・どんなお店によく行っていた？
- ・楽しみだった「買い物」の時間って？
- ・印象に残っていること

お題② 地域の子どもたちが住みたくなる、自分たちが何十年先も住み続けたくなる、そのために未来の地域へつないでいきたいこととは

- ・どんな姿を残したい
- ・そのために今できること、動き出すべきことってなんだろう？
- ・実現に向けて、同志となり得るのは？ 住民一人一人ができることって？

グループワークまとめ

【グループ1】

- ・駄菓子屋のことなどで子ども時代を振り返った時、会場のみなさんは楽しい思い出がたくさんあると思うが、今の子どもたちは地域の中で楽しい思い出を作れているのか。高山、飛騨地域だからこそ楽しめることの思い出を子どもたちに残すことが大事
- ・鮎釣り体験や森へ入っていくことなど、学校の中で取り組んだり各家庭で経験したりすることも必要
- ・都会に勤めた時や子育てし始めた時、例えば庭で花火ができないなどの経験から、子育ては高山へ戻ってやろうと思えるように、また大人になってから戻ろうと思えるようにするために、子どもの頃の楽しい思い出を出来る限り作ることが大切
- ・三世代の交流の場も減ってきている。私たちが子どもの頃には三世代ふれあい広場ということをやった。世代を超えて餅つきやコマ回しなど同じような遊びをしてきた。もう一度三世代の交流を地域に取り戻していてもいいのではないか
- ・働き甲斐、生きがいを感じたい人がいると思う。40、50代から始める農業があってもいいのではないか。この地域だからこそできる企業や、都会に行かなくても稼げる仕組みが生めたらいい
- ・まず大人が楽しまなければという話もあった。子どもたちにも楽しい大人像を見せつけられればと思った

【グループ2】

- ・コロナ禍を経て、改めてお酒と祭でのコミュニケーションは大切
- ・子どもたちはオンラインゲームなどでつながっているが、会って話すことが大切ではないかと思った

【グループ3】

- ・子どもたちが楽しめる場所がなくなってきている。子どもたちが自分たちで挑戦したりやりたいことができるような場所を提供できているのか
- ・まち協の事業でも子どもの安全を確保しながら、子どもたちのやりたい気持ちを大切にしたい
- ・小学生の挑戦を中学生がサポートするような子どもたちの自治などを大事にしていけないといけない
- ・子どもが地域に飛び出て地域の大人と色々な経験をしていくことが心の中のふるさとみたいなものになっていくのではないか

【グループ4】

- ・お題1では、昔はつけで買い物したり、駄菓子屋のばあちゃんがみんなの名前を知っていたりなど、つながりの話がでた。人とのつながりが今と昔、または地域によって違う
- ・各地域の小さい単位、町内などでそれぞれ取り組みをしていることがでた。色々な問題があるなかで、行政の協力も必要で、取り組みを続けていくことが大切
- ・どうしたら若者が帰ってくるか、定着するか。やはり仕事が一番という結論になったが、飛騨地域は観光地であるため、仕事をいろいろ生んでいけるのではないかと思う

【グループ5】

- ・ 経済的な理由、給料が少ない、仕事がない、役ばかりあたって責任が増えて大変、後継者がいないなど課題がたくさんあるなかで、どうすれば若い世代が戻りたくなるか。高山でしか得られない経験をどのように生み出していくかということ話し合った
- ・ つながりを通じて何か生み出したり、還元したりしていくことが大切
- ・ 学校、地域、家庭の3点で子どもを育てることに取り組んでいるところもある
- ・ 親も地域のいいところを理解し、子どもとコミュニケーションを図り伝えていくことが大切
- ・ 高山に帰ってきて安心して過ごしていきたい、子育てをできる場所になればいいと思う

【グループ6】

- ・ 駄菓子屋の良さや、子どもが買い物に行った時に安心できる場などの話がでた
- ・ 地域独自の行事があると人も集まってくるのではないか
- ・ 私から見た高山は祭や自然など魅力的である。自分達が地元の強みを活かし、地域を大切に生きていくことが大切
- ・ 自分たちができる範囲の努力をする必要があると思う

【グループ7】

- ・ 各校下に駄菓子屋ができるといいなと思った。学校に行かない子も来てくれたり、勉強できるスペースがあったりなど、良い場所だと感じた
- ・ 駄菓子屋だけでなく、夏場は余った野菜などを置いていつでも取りに来てという場所があるといいなと思った
- ・ 空き家を活用して、子どもとお年寄り、ママさんが利用できる居場所があればいい

【グループ8】

- ・ お題1では駄菓子屋が思い出に残っている、交流の場であった。大きいお店と違い、見守ってくれたり、遊んだり自分で買い物ができたりする場だった。
- ・ 小学校で保護者が直面している問題で、例えば今の子どもはお釣りという言葉が分からない。実体験が少なく、過保護にされているため、簡単なこともわからなくなっていることが課題
- ・ 高山ならではの自然にある遊び、みなさんが経験してきた遊びを残していく
- ・ コロナで祭などの伝統継承が少なくなっているため、そういう機会も大切
- ・ 久々野の町内会では、川で鱒を釣ったり、子どもが自分で考えて子ども会でゲームをやったりしている。大人が大人の都合で子どもの楽しみを奪ってしまっている現状もあるため、子どもが主体となって計画するような機会を作り、子どもに知恵や甲斐性をつけさせるのも大切
- ・ 対話がある遊びをすることも大切。町内会や子供会などで、子どもの目線で企画させてあげてはどうか

【オンライン】

- ・ 失敗体験など、自分のためになったという思い出を経験してほしいという想いがある
- ・ 交流そのものをお互い意識してもつ必要がある

- ・子ども、大人に関わらず、経験を伝える術がない。大人がどういうものを伝えていけばよいか分からないということから、子どもたちは大人の背中をどうみたらいいかわからないという課題があるように感じた
- ・一之宮では、駄菓子屋をやるようにして世代間を超えたコミュニケーションをとるようにしているところもある
- ・丹生川では、有志でお茶会を開きコミュニケーションをとる場を設け、主体的なコミュニケーションをとろうとしている
- ・大人が子どもに伝えていくという意識をもたないと伝わっていかないものもあるため、教育というものは子どもだけでなく大人にも大切である